



全日本私塾教育ネットワーク

# 私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>

第11号（平成17年7月号）



夕立や 街の緑の 衣替え

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治 作



# 全国塾長・職員研修大会

## 新しい教育のかたち『人を創る・学校を創る』

平成17年4月24日(日)にB I Z新宿にて午前11時から関東総会が行われ、午後1時から全国塾長・職員研修大会が開催されました。出席者は私塾ネットの会員が各エリアから63名が参加。友好団体の塾関係者も21名、学校関係者21名、企業関係者11名の多数の参加者で盛大に行われました。

### 【第一部】研修会

司会の田中宏道先生より紹介があり、先ず初めに関東の鈴木代表より今日の研修テーマと有意義な日にして欲しいとのご挨拶がありました。そして研修はプロローグとして各エリアの代表4者によるミニ講演『元気塾ノウハウ公開!』が行われました。

### プロローグ

北海道・東北エリアから「おもちゃ箱をひっくり返したような教室から...」  
北海道、札幌進学教室 入江 昌徳代表



私はオフィス街の真中で、地域には生徒が誰もいないような所でやっていますが、80坪で小1~20歳まで200人の塾生を教えています。一斉授業は1学年15名限定ですので、小中学生は1人で4~5万円の月謝。四谷大塚の提携塾として北海道で中学受験をやろうということでスタート致しました。当初は中学受験中心でやっていたのですが、今は個別指導と東進衛星を、独自のやり方でやっています。楽しくなければ塾じゃないと思っています。面倒見を良くする。小1に120分授業(60分×2)をする。合い言葉は「アニメに負けるな」、好きなアニメを見る時には120分でも集中することができる。好きな物は集中するはず。竹刀や布団叩きは持ちます。携

帯は音を出さないこと。高3、浪人生が多く、12名が小学生から来ています。原則を守り古典的です。是非北海道へお越しの切はお立ち寄りください。

関東エリアから「社訓!人を勝たす」

東京都、ナカジユク 小野田副塾長



ナカジユクの社訓「人を勝たす」についてお話しさせていただきたいと思います。人を育てていく。その人に仕事を任すこと。その人に仕事を生き生きと元気にしてもらおう。任されると、結構やってしまうもの。失敗などのデメリットよりメリットの方が大きい。今、2教室の教室長をしておりますが、そんなに特に大変だと思ふことも無く、逆に元気になっている感じがする。講師の先生方にも任すことをするし、年に2,3回の保護者会も塾長は挨拶程度でその他の先生方だけでやっています。色々アイデアを出したりしてどんどん良くなっています。塾長が旅行にいても塾は順調に回っています。ナカジユク内で、リーダーを育てるということでやっています。塾の仕事は楽しいと思ってやっています。生徒の学力をつけさせてあげたい。居場所を作ってあげたい。きちんと接してあげ、愛の溢れる空間にしたい。そして生徒増にもつなげたいと思っています。ありがとうございました。

中国エリアから「授業・診断・対話のバランス」  
広島県、栄光ブレップ 北川 健治代表

中国エリアは山口先生はじめ皆元気が良い。研修会では、どれだけ盗むかだと思います。人は、元気が一番。女学生の友。ユンケルとニベアで、若い先生に負けない。元気をだすには、先ず実績を作る。そのために必要なのは授業・診断・対策の3つ。この3つのバランスが崩れるとおかしくなってしまう

う。特に対話は思いつきではなく、各学年、各月を表にして、どの時期にどんな内容を話すのかを生徒用、保護者用で予定を組んでいる。学力＝変化に対応する力。塾が提供できるものは、A成績の上がる授業 B成績の上がる環境 C通いやすく学びやすい学習機会、D良きライバル良き友人とふれあう場、E学問への準備、 F受験情報と進路情報。



四国・九州エリアから「開塾12年で2,000名」  
香川県、啓真館 原田 真一代表



最初に「何をやるか」、「何をを目指すか」をはっきりさせる。そして、自分の塾が持っているもの、強みを最大限にいかすこと。父兄に電話して意見を聞き、直せることは、直していく。しっかり求められているものに応えていく。

### エピソード

中部・近畿エリアから『塾が創る「夢の学校」』  
片山学園理事長 片山 浄見代表  
昭和63年、鹿児島島の池田小学校・土佐塾・朝日塾に継いで4番目の塾がつくった学校です。三度目の正直という言葉がありますが、わたしは三度失敗し、四度目に学校をつくることができました。三度目の資金面での失敗はもう駄目かと思いましたが、



社員の励ましがあがり一念発起することができた。お金や物は無くなるが、人（友人、生徒）は無くない。人が大きな物事を動かしました。文武両道を目指し、東大20名、医学部20名を目標にしています。

エピソード 前の時間をお借りして私塾ネットに功績のあった落合・城両先生に対して感謝状の贈呈があった。



谷村理事長より感謝状を贈られお礼を述べる落合先生

### エピソード

『人を創る モチベーションアップ・感動創造』  
サードステージカンパニー 森 憲一代表

まず会社名の「サードステージ」についての説明がありました。

私自身学生時代から演劇や映画に携わってきた経験があります。高神章二さんが早稲田大学のサークルから創った第3舞台という劇団がありまして、そこからつけさせていただきました。第1の舞台は（役者・演出家など作り手の舞台）第2の舞台は（観客）第3の舞台は（作り手+観客が一体となった幻の舞台=感動の共有）それが僕達の目指すところでもあります。つまり第3ステージは商品の提供

と客の感動の共有です。先ず今日は2つの事だけをお伝えしたいと想います。「思い」「想い」は、手法の上流にあり。「仕組み作り」とは、「文化を創造すること」7つの習慣というビジネス書にも似たようなことが書いてあります。やり方（手法＝仕組み）というのは、自分たちの想いが前提になかったら、全く無意味であるということなのです。

僕は2001年2月に飲食店をベンチャーでやっている会社に就職致しました。そこでの体験ですが、入社して1週間後にいきなりある店舗の店長になりました。まず驚いたのは、その店舗のアルバイトたちが当初全くやる気の無かったことです。1つの店舗は1人の店長とアルバイト達で運営されていました。アルバイト達は皆「やめたい」と言う。そこで一人一人に直接話を聞きました。なぜ辞めたいのかを聞くと、話しを合わせたわけでもないのに、全員が「店長は僕達の言うことを聞いてくれない。」「認めてくれない」でした。色々な話を聞いているうちにわかってきたことは、劣等生の烙印、駄目な店舗、売れない店舗という意識があり、自信をなくしていたのです。そして、決定的なことは「誰も彼らを必要としていなかった。」のです。僕はなんとか「こいつらを必要とする自分になりたい」と思いました。



熱弁をふるう講演者の森代表

アルバイト達にどんな店にしたいかを訪ねたら「お客様に感動してもらいたい、喜んでもらいたい」と言うのです。17歳の子が、店舗理念をつくりましょうと言うので、みんなで話し合っ「愛ある飲食のテーマパーク」が店舗理念となりました。販売促進をしよう、ピラを配ろう、DMを書こう、おすすめをしよう...全てアルバイトの子達からだされました。責任者を決めて実行した結果、すごくいいお店になり、売上がどんどん上がっていったのです。ところが、まったく利益が出ません。僕がアル

バイトを入れすぎたのです。本部から「あと1ヶ月この状態が続いたらこの店は閉める」と言われました。悩みましたが、アルバイト達に正直に話すことにしました。一人ひとりに手紙を書き、こんな状況でもついてきてくれるのなら返信して欲しいと携帯でメールを送りました。全員辞めたときの覚悟を決めていましたが、その夜全員が「ついていきます」と返事をくれたのです。このことは、今まで生きてきた中で一番感動したことのひとつです。アルバイト達を集めて、僕の人件費からみんなの人件費などを見せて検討会を開き、売上700万円を目指すことにしました。チラシをやめDMだけにし、僕一人で働く時間を多くしたのですが、アルバイト達はしょっちゅう店に遊びに来ていて、忙しいと手伝ってくれるのです。僕は本当に、彼らを必要とする自分になっていたのです。その結果売上も675万円までいき、何回も表彰される店になったのです。

会社が大きくなった理由は、最初は安い店舗でお客さんも来なかった。そこで悪口を1つ書いてもらい、それをその日のうちに改善した。気がついたら行列のできる店になっていた。

《悪い所の改革》 誰が何をしているか分からない、会社の仕組みを理解していなかった（コミュニケーション欲求が満たされていない） 表彰されない（承認の機会の不足） 仕事ではなく、作業になっている。（理念の不浸透） 会社の仕事を理解していない、多忙な職場で皆忙しい、横の連携が無い（学びの場・成長の場の不足） 組織には 承認（表彰、社内報） 目的（個人の目的の共有） 自由（自立した個人同志が共に認め合っって何かを創造すること）が必要。

最後に28分間の熱くプレゼンテーションするビデオを見ました。アルバイト達が途中で挫折そうになりながらも、最後まで全員が一丸となって目標を達成した場面に感動しました。

その経験が彼等の宝になることを確信しました。「夢を見ることを忘れたくない。前へ進むこと。私達の前に立ちちはだかる大きな壁は、壁ではなく、自分たちの心1つで未来へと繋がる大きな物に変わるんだということ。」「やればぜったいできるんだ」これが、「仕組み」ではなく「文化である」ということ。皆、可能性があるんだと言ってくれた子達に感謝しながら、今日の話しを終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

## エピソード

講演者を中心に2個所でテーブル座談会『ノウハウ・感動を交換』が行われました。5時30分、閉会に際して湯口兼司先生、山口恭弘会長よりお礼のご挨拶があり、田中宏道研修部長の閉会宣言で第一部が終了となりました。

## 【第二部】懇親会

続いて第二部の懇親会は、場所を移して8時まで行われ、予想以上の参加者で楽しく歓談しながら盛会の中に終了となりました。

### 第7回代表者会議報告

日時：平成17年4月24日(日)  
15:00～15:30

会場：BIZ新宿（新宿区立産業会館）  
出席者、谷村：山口、関、畑山、梶原、長江、石川、鈴木、渡辺、湯口、入江、北川、仲野、  
監査：中村、馬場  
オブザーバー：安藤、平林  
構成人数 22名 出席者 13名 委任状出席 7名



安藤顧問・谷村理事長・仲野事務局長・山口会長

#### 議案

第1号議案 平成16年度センター事業報告(主なもの)

平成16年4月25日 12:30～ きゅりあん(品川区)  
第5回代表者会議

平成16年4月25日 13:30～ きゅりあん(品川区)  
全国塾長職員研修大会

平成16年5月30日 宿泊 浅間温泉(長野県松本市) エリア中部研修会

平成16年6月13日 11:00～ 阿波池田簡易保険保養センター(徳島県) エリア四国研修会

平成16年7月13日 10:00～ 京北学園中学高等学校 エリア関東研修会

平成16年10月24日 16:00～ かんぼヘルスセンター(池袋) 私学情報交換会

平成17年1月23日 15:30～ 英数義塾(川久保博士先生塾舎) エリア関東訪問研修

承認

第2号議案 平成17年度私塾ネットセンター事業計画

昨年との変更点は、エリア関東からセンターに事務委託費を支払うこと。事務局通信の郵送化など。

承認

第3号議案 平成16年度センター決算報告

会計部長の石川維雪先生より報告。中村成美先生、

馬場正彦先生より監査の結果問題なしと報告。  
承認

第4号議案 平成17年度センター予算案  
同上  
承認

第5号議案 その他

落合清晃先生(落合学院)、城忠道先生(芸城学院)を、塾業界での長年の功績を称え、表彰(功労賞)させていただくことを全会一致で承認。



渡辺 湯口 畑山 入江 北川 谷村  
石川  
平林 長江 中村・各代表者会議出席の先生方



関 梶原 中村 長江 平林 石川 鈴木  
北川 入江・各代表者会議出席の先生方



# 四国研修大会 他のエリア報告

私塾ネット四国 川口順次（育心館）  
 平成17年5月29日（日）（於）香川県 啓真館SEED  
 〔1〕私塾ネット四国支部総会  
 11：00 - 11：30  
 湯口先生の開会の挨拶から始まり、平成16年度決算

を通して人間教育を実施されている様子うかがえる。



湯口先生と谷村理事長

報告・平成17年度予算案を全会一致で承認。本部役員より関東支部の活動報告ならびに、活動予定の報告。昨年同様あっ...という間に終わる。  
 11：30～12：30 ・昼食ならびに移動



〔2〕研修会 ...『各塾の問題点と将来展望』  
 13：40～15：30...～5年後の自塾をイメージして、



啓真館 代表 原田 真一先生

食事をとりながら個別の近況報告会がそこでもたれる。  
 12：30～13：30...啓真館東部校を見学  
 高松市屋島にある、啓真館東部校を見学する。2列にきちんと整頓された自転車を見ても、教科教育



今～  
 参加塾代表者により、開塾の経緯・近況報告・今後5年間への展望が報告される。特徴的であったのは、昨年のような悲壮な意見が少なかったこと、新たな展開を考えている塾が多かったことである。ゆとり教育の失敗は、誠実に子どものことを考えている塾にとってこそ追い見になっていることが伺われる。手を抜く事なかれ。  
 15：30～15：30 個人情報保護法についての解説  
 全国学習塾協会の楠山先生より、経済産業省が発刊しているガイドライン（ネットにより取得可）に

基づいて、個人情報保護法の読み方、受け取り方についての解説がなされる。改めて、保護者との契約の大切さを実感する。

16:00~16:15...休憩

### 【3】研修会 ... 『STAGE UPのために』

16:20~18:00

研件会場を2つに間仕切りし、以下の部屋頭によって討論会がなされる。

- ・秘密の部屋A：広島県 若竹塾 佐藤将紀先生
- ・秘密の都塵B：香川県 啓真館 原田真一先生

開始当初は部屋移動を考えていた先生も、白熱した討論に時を忘れついに移動することがかなわなかったほどの内容の濃いものであった。塾長が何を考え、いつ、どのように実践するかといった、まさに基本中の基本がいかに大切であるかを胸に刻んだ先生も多かったのではないだろうか。ありがたい。

18:00~18:30...漁師さんの怪訝な眼差しを気にしつつ近くの漁港を散策

### 【4】懇親会

18:30~21:00



研修会場の間仕切りを取り去り、バイキング形式で海の幸を味わう。実に美味。オコゼの唐揚げやスズキの姿煮など。直前に見た海を泳いでいた姿を想像させるにたる海の幸料理の数々。懇親会費が安すぎるのでは・・・？医者からの食事療法の指示を故意に忘れた先生もいた。明日からダイエット。

21:00~翌朝5時

いったん散会の後、会場の5ヶ所ほどで小分科会が始まる。中には秘密の部屋Zとも呼べる分科会も、釣りの部屋と呼べる分科会もあったらしい。帰宅して、ワイシャツを脱いだ瞬間、香りがした、自塾の何の行事も行っていない、真新しい研修場を会場としてご提供いただいた啓真館原田先生に改めて感謝。そして、道に迷うことの無いよう経路道路の何カ所にも立っていただいた啓真館のスタッフの皆さんにも感謝。おかげで、例えようもないすばらしい研修になったことをここに付記。

川口先生のメールより

5/29(日)の私塾ネット四国の総会ならびに研修会、本当にお疲れ様でした。これまでのどの研修会とも違った研修に参加できて大満足です。また、参加された皆さんがそうであると信じます。

それにしても、原田先生の懐の広さとスタッフの皆さんの献身的なはたらきに感銘いたしました。スタッフの皆さんの動き一つ一つに「何としても最高の研修会にするぞ!」という意気込みがひしひし感じられ、アットホームな雰囲気の中に心地よい緊張感が滞っており、本当に心地よい時を過ごさせていただきました。

ありきたりな表現でしか気持ちを伝えられませんが、本当にありがとうございました。

### 松田先生からの便り

私塾ネット四国 松田俊治(スタディシップ学習塾)

徳島組3名と東京からの参加者5名、香川の先生2名は、午後10時、勇躍高松の夜の街へとくり出したのであります。徳島3名と東京の皆様は去年の池田研修会以来1年ぶり。すっかり仲良くなっているのです。皆様のある程度きこしめした谷村理事長は、とてもチャーミングな方だということをご存じでしょうか。そして、延々3時間熱のこもったカラオケ大会は、円陣を組んでの「世界に1つだけの花」の大合唱。香川の先生ありがとうございました。

川口先生の報告書とかぶりますが、私たちも研修所の道々に案内してくれる啓真館のスタッフの方を見たとき、1人目は「やるなあ、啓真館さん」、2人目を見たとき「さすが、啓真館さん」、3人目を見たときは「まいりました、啓真館」とうなりました。素晴らしい。こういう始まり方をした研修会が成功しないはずがないと思います。その通り四国と東京の絆はさらに強くなったのでした。



四国研修会に出席した諸先生方

## チャレンジ村・霧ヶ峰林間学校レポート &感想(3つの研修会に参加して)

私塾ネット関東 代表 鈴木 正之

今年の4月に開校した、チャレンジ学院の合宿所で、主にチャレンジ学院の勉強合宿で使用し、学院関係者やご家族の保養にも使用しているそうです。

住所：長野県諏訪市大字上諏訪字角間沢東13338番地1

施設：1階...ホール(収容40人)、2階...和室7室、地下...浴室、娯楽室

敷地：2791平方メートル、地上2階、地下1階



チャレンジ村全景

チャレンジ村に着くと駐車場から、木々に囲まれた霧ヶ峰林間学校が見えました。車から出て歩いていくと、すぐ目の前は霧ヶ峰スキー場。リフト乗り場からは100mほどしか離れていないほど近くです。緑の看板に刻まれた「霧ヶ峰林間学校・チャレンジ村」は周りの木々に負けないほど鮮やかでした。入り口を入るとすぐ「ペリーの間」、私の部屋は「秀吉の間」、研修会と懇親会は「孔子の間」で、「ペリーの間」以外は和室で、いつも椅子での研修会ばかりでしたので新鮮さを感じました。

翌朝朝食後、スキー場のリフトを横目に、関東からの参加者全員がスキー場の上まで登りました。すると360度の大パノラマ。多少雲がありましたが大満足。この研修会前日まで雨が降っていたことと思うと天気の良い文句は言えません。



チャレンジ村での研修風景

自然に囲まれた林間学校での研修会と懇親会。松本先生、そしてチャレンジ学院の職員のみなさん、ありがとうございました。私塾ネット中部の先生方、原先生、三松先生、渡辺先生、ありがとうございました。

<3つの研修会に参加して>

4月24日全国研修大会で『片山浄見先生、片山学園の夢の学校、片山学園中学校』、5月29日は『原田真一先生、啓真館のSEED』、そして今回6月12日『松本紀行先生のチャレンジ村、霧ヶ峰林間学校』。色々なものを見させていただき、沢山のお話をお聞きしました。これらの研修会に参加して、間違いなく確かなことは、我々私塾ネットの仲間の先生たちが「夢」を実現させているということ、そして、元気があり塾生数も売上も伸ばしている先生たちが沢山いるということです。



教育への熱き思いを語る松本先生

「自塾がうまくいっていない」、「仕事が忙しくて大変だ」、「問題を抱えている」という時こそ、私塾ネットのそれこそネットワークから『ヒント』が

見つかるかもしれません。「余裕がない」時こそ、私塾ネットの研修が『ほんとうの余裕』を与えてくれることを痛感しました。又、私はこれらの研修会で多くのことを勉強させていただきました。その中で、自塾で実際に4つのことを実行し効果を上げています。地域や規模が違うからこそ逆に新しい発想に巡り会えると考えています。

しかし、一番最高なのは、先生方との出会いです。研修会、懇親会(2次会)はもちろん、四国の研修会では高松空港までの車中と高松空港での湯口先生のお話、中部の研修会では翌朝部屋で聞いた松本先生のお話は忘れられません。「なぜ、湯口先生や松本先生は真剣に、熱く、お話してくれるのだろうか。」本当に感謝です!ありがとうございました。

11月13日に私塾ネット中国の研修会があります。中国エリア以外の先生たちも大勢参加することで研修会の内容に負けないくらい、会員の先生方の出会いも充実した研修会になることを期待しております。全国の会員の皆さん、私塾ネット中国研修大会へのご参加よろしく願いいたします。私塾ネット山口会長、中国エリア北川代表、お世話になります。



## 関東中部合同研修会報告 研修部 大住 明敬

6月12日の朝、新しくなったJR赤羽駅前ロータリーに関東のメンバー10名が集合。仲野号、渡辺号の大きな車に分乗していざ出発。談合坂に立ち寄っただけで、目的地に直行。高速を降りたところに松本先生が待っておられた。なんと先生はタクシーにて来られ30分以上も待っておられたとのこと。ありがとうございます。群馬からの碓先生も合流。松本先生のお勧めの蕎麦屋にて昼食。先生はすでに昼食は済まされたとのことで、炎天下の外でお待ちくださった。いやあ、先生の優しいお人柄に接し、そばも一段と旨かった。

研修の第1部であるチャレンジ学院の校舎見学が始まる。2校舎見学しましたが、どちらも広いスペースを有意義に活用された教室で、小さな教室しかない筆者には涎が出るほど羨ましかったね。どの教室にも松本先生の思いがこもった掲示があり、生徒第一の方針がよく分かりました。

そしていよいよ目的のチャレンジ村に向かって出発。教室から30分ぐらいで到着。霧が峰高原の雄大な自然の中にある大きなロッジでした。みずほ銀行の保養所だったらしく、宿泊施設としては申し分のないものです。各校舎の責任である先生方が出迎えて下さり感謝なことでした。また今まさに新人研修の真っ盛りとのことで、研修期間中の職員の方もいらっしやり活気のある様子でした。おもしろかったのは、宿泊部屋の名称が、秀吉、家康、紫式部など、歴史上の人物名がつけられ、部屋の中にはその人物のことが詳しく紹介されていたことでした。松本先生の思いがここにも見受けられました。素晴らしい。

広島より山口会長が到着され、簡単な自己紹介の後、研修の第2部が始まりました。

まず、碓先生より来年の中学の教科書改訂についてタイムリーなご教授がありました。また、新しいパソコンソフトについての紹介は大変有意義でした。

続いて、山口先生より最近大きなセミナーに出席されての感想ならびに提言があり、中小塾のわれわれにとり得たお話しであったと感謝しました。塾を否定する意見や、これから生き残るのは大手塾だけだと考えている人が沢山いるようだが、中小の塾は今後教育を通して子供をどう扱い何をしていくのかを考え共に討論していくことが大切である。その話し合い、勉強する場をネットが中心となり作らねばならない。そして、時代の変化に対応できる力をつけようと話されました。

次に、夏期講習の目玉と題して、渡辺塾（渡辺先生）ナカジク（仲野先生）松進学院（原先生）スタンダードアカデミー（三松先生）よりお話がありました。講座設定のこと、送迎の充実、そして合宿

のことなど、ヒントになることが多く有意義な時間でした。

少し休憩、この時も鳥の音が聞こえ、自然の中にいることを実感しました。

そして、松本先生の講演が始まりました。人生はチャレンジだ。人を作ることを教育理念とされている先生の基盤を知ることのできる有意義なお話でした。チャレンジ村が開村するまでの経緯とその苦労話、人材育成の方法の二つがお話のメインでした。

開村までの経緯では永年子供たちの潜在能力を引き出すことを念頭に、教室作りの工夫、野外体験の充実など色々な事をなさっていたことを知りました。その中で30年前から合宿場を考えていたこと、そして3年ぐらい前から本格的にリサーチをはじめ30箇所ぐらいを見て回ったご苦労を聞きました。やっと見つかったこの場所も、役所との折衝がホテルなのか合宿所なのかで大変もめたこと、しかし関係議員さんの一声で役所の態度が一変したことに不信感を持ったことなどおもしろおかしく話される中に、一つのものに向かう、チャレンジする大切さを教えられました。維持費だけでも年間1000万かかるこの施設、先生の並大抵の思いではないと知らされました。

人材育成のお話では、私たちも直面している問題なのでさらに興味を持って聞きました。毎年社員募集では500名ぐらいの応募があるが20名ほどを採用予定としてもやめたりやめさせたりで4月には5名ぐらいしか残らないとのこと。（羨ましい、そんなに来ませんよ）さらに試用期間中も厳しく対応するとのことでした。子供に幸せをもたらすのが職員だ。人間の教育は奥が深い厳しく育てることが大切と力説される先生がいる。しかし、失敗してもそれを次にどう生かすかが大切なのだと教えられる先生の姿勢。職員も生徒たちと同じようにかわいくてしょうがないとおっしゃる先生の笑顔を拝見して、ここの職員は幸せ者だなあと思いました。先生のご子息も含めて、教室長、ならびに7人いる教室長候補の人たちががんばってください。

研修の後、温泉に浸かりすごいご馳走の懇親会が待っていました。

自然を満喫し、有意義なお話を聞き、そして楽しい交わりの時が持てた一日。本当にありがとうございました。

研修会に出席された先生方



## 私塾ネット全国研修会に寄せて

私塾ネット北海道代表 入江 昌徳



真夏を思わせる暑い日、道を間違えて大汗を書きながらやっとたどり着いたら、懐かしい先生方の顔顔顔...。如何にご無沙汰していたかとちょっと反省。研修会開会のご挨拶などの後、各地からの報告はなんとトップバッターでは！事前に見ていたとはいえ、やはり少々緊張。好き勝手な話ですいませんでした...

私以外の、若手のみなさんの元気一杯なお話に多に感動させられ、片山先生のご苦労話。開校前のお話も聞いていたので、開校その後も多に面白かったです。

研修として、伸びる若手企業の実態をまざまざと見せ付けられた思いでした。

私としては、こうした行事のメインイベントと考えている懇親会も見事でした。その後の2次会も楽しいお話の山でした。新しい世代の先生方が前面で活躍されて動いていただいた様は、ネットの前身の一つ、全塾連の往時を感じさせてくださいました。久しぶりに、私塾の集まりを「楽しい」と感じる事が出来ました。

中心となって動いていただいた関東の先生方にただただ感謝です。

私塾ネット東北代表 畑山 篤



(有)サードステージカンパニー森憲一社長のご講演には正直驚きました。研修大会パンフの紹介文を読んだ時には全く興味がわかなかった(書いた方、申し訳ありません!)分大変驚きました。森社長のノラリクラーとした話しぶり(社長、失礼な言い

方お許しを!)の分大いに驚きました。...『とりでん春日部店「鳥春の掟」として スピードメニューのお勧め 一番搾り(トイレ後おしぼり) 愛のDMの3つと決め、以上を何度も何度も練習を!』1400名の前で体験発表する壇上店舗のメンバーたち...『店舗は「愛あるテーマパーク」!客単価をあげるために お勧めをする スピードを上げる ハガキを書く!』...ビデオが終わり、悔しいけれど私は感動し、不覚にも涙まで流してしまいました。どこかで「自分は若い方だ」と自負してきた私でしたが、本当に驚きました。これが“今”のアルバイトか!「フリーター」だの「社員」だの「アルバイト講師」だの「専任講師」だの...。初めはその程度の認識だった私も、終いには森社長の「思い・想いは手法の上流にあり」というメッセージが納得出来ました。教育の在り方・人の育て方には「ココロ」が

大切なのだと改めて気づかされました。自塾に戻り躊躇なく「愛」とか「心」とか多用するようになりました。(「使いすぎだ!」と塾生に指摘されながらも...)

## エンジン全開!私塾ネット中国

私塾ネット中国代表 北川 健治



私ども私塾ネット中国は全塾連広島支部時代より、城先生、山口先生のご指導のもとに折に触れ塾長研修会をしてきました。今年は11月13日に四国エリアと合同で開催する予定でいます。「2006年塾のかたちを探る」WILL

TOR E V I V E を掲げていま

す。今回の企画の第1部は来春2006年中高一貫校である「湯梨浜学園」を設立される私塾ネット中国の鳥取・伝習館の坂根徹先生のお話をお伺いいたします。新日本海時代を作るために地元の生徒の向上心や進学の実望に十分こたえるべく学園設立の渦中にあるさまざまなお話を徹底的に学習して自塾の経営を参加者がそれぞれが考察するといったものができればと考えています。また第2部はリレースタイルで、～「塾の危機感をえぐる」生き残りかけた塾経営の問題点を斬る～と題して、A、漢字検定日本一の塾いくえい塾(岩石)、B、次世代に伝える算数道40年芸城学院(城)、C塾の危機を問う田中学習会(田中)、の3テーマをそれぞれの塾のトップに話していただきます。参加メンバーが自塾の目線にあった塾経営の問題を生き残りをかけ質問の刃を交差させるようにしていけたらと思います。また、あわせて今回会場となります福山は社団法人全国学習塾協会会長である石井正純先生の故郷でもあります。郷土が生んだ偉大なる先輩を心から顕彰すべく感謝の式典も行なう予定でいます。最後に私塾ネット中国のスローガンは「癒しと情報交換」を掲げています。研修会後の懇親会では瀬戸内の料理、広島酒を用意していますが、是も研修です。備後福山の地で、明日への英気を養っていただけるよう精一杯企画してまいりますのでよろしくお願い致します。なお詳細は9月にも発表させていただきます。



## 私塾ネット四国 楠山先生投稿記事

なかなか進まない

「女子総合職を送り出す者の立場として」

楠山ゼミナール 楠山 敬志

女性研究者について



2005年度版「男女共同参画白書」によると、科学技術分野で女性が占める割合は11.6%にとどまり、政府は子育てと研究の両立ができる労働環境改善の必要性を指摘している。

先進各国の状況は女性研究員の割合が、米32.5%、仏27.5%、英26.0%と日本

は先進各国に比べて、半数以下の比率という現状が数字からうかがえる。

わが国の場合、女性研究者の6割が大学に所属している。しかし、この内容を細かく見ると助手と講師は20%超、助教授は16.1%、教授9.7%と職制が上がると比率が下がるという顕著な現象がみられる。特に、工学分野では1%弱である。

白書は「研究者は長期間の仕事の継続性が重要だが、出産や育児、介護で負担が重い日本の女性は研究を断念する例が多い」と分析している。

また、「男女の能力差を挙げる研究者はほとんどない」にもかかわらず、「女性研究者に採用や昇進などで不公平感が強い」と指摘している。

また「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という「固定的性差別役割分担」に反対する人が賛成を上回ったものの、在職中に産出して育児休暇を取得した女性は73.1%なのに対し、妻が産出し育児休暇をとった男性はわずか0.4%にすぎず、意識と現実の落差も浮き彫りになっている。

現実から見ると、実態を極めて正確に把握した分析であろう。この社会は当面少子高齢化に歯止めがかからないことを前提とすれば、数年後にも始まる人口減少化社会の中で、労働力確保の決め手となるのは女性と高齢者の職場参加を容易にする以外に出口は見当たらない。

問題は、はたしてどいいう「参加」の絵を描くのかであろう。白書は'05年度の施策として

女性国家公務員の採用・登用の拡大

保育所の空きをまつ待機児童の受け入れ枠を'07年度までに拡大

仕事と育児・介護両立のための制度の定着促進

などを挙げたが、従来と目だって新しいものが見当たらないのと、コスト面にまで踏み込んだアクション・プログラムが必要なのではあるまいか。国の珍奇な年度予算を使い切らねばならぬ「予算文化」は

破綻しているのである。この問題こそ「単年度予算」で乗り切れるものでもなく、また企業の利益追求とどう整合性をもたせるかという課題にふみこまねばならないと考える。

当然、税制も含めた議論がその先にあるのはまちがいあるまい。

研究者以外の女子総合職に関する若干の考察

「制度が人間社会の変化に追いつかない」という現象は、こう社会の変化が急速にやってくると、どの分野においてもあたりまえに出現するものらしい。

人口減少社会をこの国はこの2~3年以内に経験し始める。すでに若年層の人口は減少している。もはや「準備不足がお家芸」となった感のあるこの国は、あちこちにほころびが見えかくれする。

世界に例を見ない医療保険制度、年金・・・どれもこれも数十年前から既にデータ的には見えていた問題に対し、準備をする気がお上になかったかのようさに見える。

女性の社会参画を高らかなテーマに、「男女雇用機会均等法」が'85年に制定され女子総合職なるものが世に出て約20年になる。

その後労働マーケットでの女子総合職はどのような推移をたどったのであろう。相変わらず、結婚、出産の現実と仕事のスキルアップの狭間で悩みぬいているのではなからうか。

「男社会」の壁を現実に体験し、職場を去っていくもの。友人の結婚を横目に、ひたすら自己の価値観にしたがって晩婚化社会の一員となるもの。新たなフィールドに移っていくもの。種々さまざまであろう。

わずかに大手損保等一流企業から、結婚後も希望勤務先への転勤が可能になり始めたばかりである。

高度成長後の目標の喪失

戦後約半世紀の間に、周辺アジア各国が今から始まるテイクオフを、わが国はほぼ終えたと見ていい。歴史的には'85年のプラザ合意以後のバブル時代を約5年経験し、その後の未曾有の資産デフレ処理を何合目かまでやっとたどりついたのではあるまいか。

戦後嘗々と築き上げた都市銀行十数行のバランスシートが数百兆円単位でいたみ、いわゆる「不良債権処理」が都銀で一部手のつかない債権はのぞきほぼ終了した。

その間、東京三菱・みずほ・三井住友・UFJ・りそなへと、さらにUFJは東洋と住友との信託合併を反故にして東京三菱に事実上の吸収を余儀なくされる。さらにこれではギガバンク相互のバランスが崩れるのと、'07年から始まる外国企業による株式交換によりM&Aが解禁されることも相まって、もう一段の大型合併が主要行の間でうわさされてい

る。

地方金融機関の「処理」はいまから始まるころであろう。産業界ではハイテク特に、エレクトロニクス関連の企業は製品の価格競争による値崩れが業績の足をひっぱっている。レベル的に実りを収穫するという視点に立てば、踊り場にいると考えてよい。

産業ごとにばらつきはあるが、いわゆる「目標」ことばを換えれば万人がすくなくとも経済に話を限っても「一致するターゲット」が見えにくくなっている。ある意味これは当然なのかもしれぬが「不透明」そのものである。

トヨタは2年連続で1兆円を超える利益を出し、100億ドル単位の利益を出す世界のベストテンに名を連ねた。おそらくは、ここから数年がこの企業のピークを迎えその後、「現代」などの後発メーカーの技術力の追従を受けピークアウトするものと小生は見ている。

とにかく目標の立てにくい「誰もが納得できるコンセプト」を確定させる作業を優先すべき時代であるのかもしれない。「そんなこと〜」というのは短絡であり、こういった激動の時代であるからこそ、明確なコンセプトがそのうち集約されてくると、多少楽観的にすぎるといふそしりを恐れずに小生は見ている。

## 高度成長後の目標の喪失\_2

しからば個人のレベルではどうか。この10年以上、上場企業の大半はバランスシートのスリム化につとめそれなりの成果をあげたといえる。当然バブル崩壊以降の長いトンネルをぬけつつあるものと考えられる。

しかし、この間いわゆる妙な用語ではあるが「リストラ」をはじめ、収入の減少となる要因は多数あげられる。中期的には消費税が3%から5%へ、健康保険の個人負担率の引き上げ等、橋本内閣時代の財政黒字政策がここにきてポディーブローのようにきてきている。

企業が生産拠点を中国にシフトしたことによる、デフレ効果を個人のレベルでは享受できていないのではなからうか。この可処分所得が伸びないという実感は、なかなかデフレのトンネルをぬけ切れない遠因と考えられる。

よって、なかなか個人消費がGDPの牽引役として登場してこない期間が長期化している。このことは漠然とした「将来への不安」を醸成せしめるものであり、余裕資金は消費に向かわず、貯蓄に回るのが従来からの傾向である。

先進国全体に世代が移行するにしたがって、貯蓄率の減少傾向がみられるが、さりとてこの国では消費が伸びないのである。

さらに高度に少子高齢化が加速していて、政府の

年金等への手当ても後手ごてにまわる中、国民年金の未納率が沖縄を筆頭に下がりつつある。NHKの受信料未払いも不祥事と歩調を合わせるかのようにはバラレルに上昇している。

将来的には消費税率の引き上げは不可避であり、そのことだけが何となく国民の間で実感されており、そういう意味ではきわめて「精神的によくはない状況」といえる。

政治がもっと将来のこの国の「あるべき姿」をアピールし、理想を熱く語り、現実的なスケジュールについての説明責任を果たす重要性が今ほどましている時期は、過去においてなかったように思うがいかがなものか。ぜひとも「女性とシルバー世代の社会参画」を他の先進他国にさきがけて確立するべきであろうし、その条件はそろっているように思えてならない。



## 楠山先生の日記より(ホームページより転載)

2005年06月12日(日)

最近、小生にもなぜか原稿の依頼や今から書かねばならないものがいくつか入っている。この日記を書き始めて数年になるが、妙なもので書き始めたら、それは何とかなったのであるが、今度は「継続」というハードルが待っていた。

それもどうにか乗り切ることにした。よほどの大病でもしなにかぎり毎日書く。最悪当日やむなくかけなくても翌日には必ず埋め合わせをする。

数ヵ月前、1.38kgのノートを買ってからはずいぶんカバンが軽くなり「快適モバイルライフ」がやってきた。しかし、なぜか今度は「書き物」の仕事が増え始めたのである。

よくしたもので、これでPCと付き合いがなければ大変なことになっていた。考えただけでもぞっとする。まあ、忙しくなったぶんではチャラかと考えあきらめることにした。

## 各 部 報 告

### 会計部 部長 石川 維雪

#### 17年度センター会費ご協力をお願い

本年も会費の徴収を行っております。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、センター会費は12,000円(年額)でございます。

エリア東北(青森県)、エリア関東、エリア中国、エリア四国

各エリアごとに、センターの会費を集めさせていただきます。

なお、同時にエリアの会費を集める場合もございます。

詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当者にお問い合わせください。

\*エリア代表者

エリア東北 畑山篤(志学塾)

エリア関東 鈴木正之(いぶき学院)

エリア中国 北川健治(栄光プレップ)

エリア四国 湯口兼司(湯口塾)

エリア北海道、エリア東北(青森以外)、エリア中部、エリア近畿、エリア九州

センター会計部より直接会費を集めさせていただきます。

5月に17年会費についてのご案内を個別にお届けしておりますので、ご確認ください。

なお、まだご送金いただいている方は、以下のいずれかの口座へ12,000円ほどご送金くださいますよう、お願い申し上げます。

詳細やご不明な点は、センター会計部 石川維雪(03-3483-8221:さくら記帳代行センター内)までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】 以下の郵便口座までご送金ください。

(口座番号)0230-6-0068820

(口座名義)全日本私塾教育ネットワーク

【銀行振込でご送金の場合】 以下の銀行口座までご送金ください。

みずほ銀行 祖師谷(そしがや)支店 普通預金 8079372

(口座名義)私塾ネット 会計部長 石川如雪

<ご注意> 一昨年まで一部の会員の方にご利用いただいていた「自動振替」による会費の徴収は、昨年から行っておりません。

### 過年度未納会費について

平成16年度までのセンター会費で未納になっている分につきまして、現在会計部の方で洗い出し作業を行っております。

作業終了後、未納となっている分につきまして、ご案内を差し上げる予定です。

### 研修部 部長 田中 宏道

#### 「全国研修大会」 プロローグからの学び

「感動。」北海道・青森や中国・四国など日本の各地から、わざわざ東京へお越しいただく全国の塾長・スタッフの方に感動していただける研修会を! その「思い」一点に絞ってエリア関東のメンバーで知恵を出してみました。この紙面では、まずエピソードから学んだことをご紹介します。

入江昌徳先生(札幌進学教室)がご自分のネクタイをつまむとノリノリの音楽が流れてきたのにはびっくり。「おもちゃばこをひっくり返したような教室から…」ってタイトルがまさしくぴったりでした。また、1ヶ月授業料は小1でも5万円ほど、なおかつ小1から高3までずっと在籍する子が多い、って聞いてこれまたびっくり!!

東京・ナカジユクの小野田先生(代表 仲野十和田先生)は「人を勝たせる。」この講演内容を知りたい方は、ナカジユク生誕20周年記念誌 仲野十和田著「人を勝たせる」をぜひお読みください。おすすめの素敵な冊子(税込300円)です。

北川健治先生(広島 栄光プレップ)はマトリックスづくりの名人。学年別・月ごとに声をかける内容がマトリックスの中で一目瞭然。スタッフの誰もが同じベクトルで子どもたちに声かけできるしくみ。そのノウハウの蓄積に恐れ入りました。「北川先生! そのノウハウ、ください!!」

香川・啓真館の原田真一先生の重い一言。「自分の着地点がどこか明らかになっていることが、塾の方向付けの第一歩。」自分の着地点はどこだ?とふらふら探し歩いている私は、先生のお話「う~む。」と唸っておりました。この話をある方にすると、その先生曰く、「あなたは着地点を見つけてはだめ。ずっとふらふらしていた方がどこかにひょろひょろ進んでいくのだから、それでいいの。」とのこと。このお言葉にも「う~む。」と再度唸り。

その後、啓真館に何うチャンスをいただきました。原田先生と共に歩んでこられた永岡先生から多くのお話をうかがい、生徒のためにとことんやる胆力・体力・ホスピタリティに触れ、身の引き締まる思いをいたしました。ありがとうございます。

百聞は一見に如かず。みなさん、私塾ネットを利用して全国の一つ一つの塾の「思い」を身体で感じる旅に出かけましょう!

**渉外部 次長 加藤 実**  
**平成17年4月9日(土)**



富山県初の私立中学校「片山学園中学校」開校式・入学式が午後1時30分より同校新校舎体育館において挙行されました。第1期生は95名。佐藤勇治渉外部部長出席。

**平成17年4月18日(日)**

衆議院第2議員会館第1会議室において民間教育連盟主催の教育改革シンポジウム「激変する教育 - 中教審答申と教育特区検証」が開催されました。福岡英進館館長筒井勝美先生の「学力低下と理数教育崩壊の実態」は素晴らしい内容でした。第2部パネルディスカッションでは下村博文衆議院議員、梶田叡一中央教育審議会委員、鳥海十児株式会社朝日学園朝日塾中学高等学校学園長、鈴木英敏経済産業省経済産業政策局産業構造課長補佐がパネラーを務められました。貴重なお話が聞けました。

**平成17年4月24日(日)**



長野県諏訪市ウエディングプラザ「橋場会館」において、チャレンジ学院(松本紀行学院長)霧ヶ峰林間学校開校記念式典が挙行されました。佐藤勇治渉外部部長、田中敏勝NPO理事長、広島からは佐藤将紀先生他多数参列。「川田正子と森の木児童合唱団」の素晴らしい演奏が花を添えました。

**平成17年4月24日(日)**

新宿区立産業会館「BIZ新宿」3階研修室Aにおい

て、午前11時より私塾ネット関東総会、および私塾ネット全国研修大会が開催されました。私加藤は長野の方に行っておりまして詳細不明ですので、詳細報告は広報部長、研修部長等の報告をご覧ください。午後6時から「新宿住友ビル」51階展望レストランにて「私塾・私学・教育企業懇親会」が開催されました。田中NPO理事長・佐藤勇治渉外部部長・森貞孝全国学習塾協同組合理事長・広島の佐藤将紀先生、そして私渉外部次長加藤は諏訪の式典終了後急遽駆けつけました。座る席がないほどの大盛況でした。

**平成17年5月29日(日)**

国領の市民プラザ「あくろす」3階研修室1において全国教育ボランティアの会平成16年度定例総会が開催されました。文部科学省後援の「子育て支援基金事業」は調布・三加茂町・名寄・厚木・下諏訪の五箇所で開催。「理科実験教室」は全20回全国で開催と積極的活動を展開しました。

**平成17年6月4日(土)**

学校法人調布学園80周年記念、田園調布学園中等部・高等部新校舎竣工記念式典および祝賀会が同校で開催されました。安藤進理私塾ネット顧問、佐藤勇治渉外部部長が出席。西村弘子校長にお祝いのご挨拶を致しました。

**平成17年6月5日(日)**

平成17年度社団法人全国学習塾協会定例総会が江東区有明の東京ファッションタウンビル東館904研修室にて開催。総会后「個人情報保護法」セミナーと懇親会には谷村理事長、山口会長、安藤顧問、関社団理事、佐藤渉外部部長が参加。

**平成17年6月10日(金)**

全日本学習塾連絡会議より平成17年度(2005)「私学・私塾・企業 教育ネット要覧」(B5版298頁、2500部発行)が発行されました。編集責任者は私塾ネット渉外部部長佐藤勇治先生。

**平成17年6月12日(日)**

「第16回教育シンポジウム」(旧「スバルの会」)が新横浜国際ホテルで開催されました。政界・官界・公立学校・私立学校・教育関連企業・学習塾団体・学習塾の先生方など約400名が参加し、盛大に行われました。私塾ネットから安藤進理顧問、佐藤勇治渉外部部長が出席。

**平成17年7月17日(日)**

午後1時より国領の市民プラザ「あくろす」で「生きいきワクワク体験親子の集い」が開催されます。ミニプラネタリウム作り・スーパーライトグライダープレゼントがあります。

以上ご報告申し上げます。  
 2005年6月26日午前1時10分



## 事 務 局 便 り

本号からネット主催および協賛・後援の行事予定を下表のように掲載します。以下は6月末現在で把握しているものです。変更や掲載されていないものがありましたら事務局までご一報ください。

### 閑話休題 理事長 谷村志厚

#### 社団法人全国学習塾協会に新役員誕生

6月5日、社団の総会が開催された。当年度は役員改選の年にあたり、先に実施された選挙の結果選出された新役員の方々が紹介された。私塾ネット会員からは以下の先生方が新役員として、今後の社団の運営に関わられることとなった。北から順に紹介すると、エリア北海道入江昌徳先生（札幌進学教室）エリア東北関志郎先生（関教育学舎）エリア関東碓優先生（碓塾）エリア四国楠山敬志先生（楠山ゼミナール）の4名の方々である。また、監事として山口恭弘会長と清水武夫先生が留任されている。その後、7月2日の理事会で会長以下の新執行部が決まった。会長は石井正純先生の留任、副会長には伊藤政倫先生が留任し、楠山敬志、碓優の2先生が新任された。おふたりとも私塾ネットの代表である。会員の皆さんにはこれまで以上のご理解と応援をお願いしたい。

自前の宿泊研修所に夢をふくらませて  
5月29日のエリア四国の研修会と6月12日のエリア中部関東合同研修会に参加した。両研修会とも会場が自前の研修施設であったのが今回の特徴である。塾が自前の研修施設を持つことは夢のひとつであろう。そんな勢いに乗る二塾の先生方のパワーをみせつけられる研修であった。四国の研修会はこれで3年連続の参加とあって、四国の会員の皆さんとの交流も大いに進んだ。ことに深夜におよぶ研修会では、なおいっそう懇親が深まり、いずこにも英雄があるものだろう。うれしくなった。中部の研修会にも過去2回参加させていただいたが、チャレンジ学院を訪問するのは始めてであった。岡谷教室と下諏訪の本部教室を見学させていただいたが、いずれもアイデア満載の教室であった。松本先生の柔軟な発想を垣間見ることができた。教室の隅々に生徒たちの「努力の痕跡」が残されており、濃密な授業が行われていることが伺えた。香川の啓真館の研修所「シーズ」は瀬戸内海を背に、一方長野の「チャレンジ村」は霧が峰高原の林間の中に、土地それぞれの風光明媚な一等地に位置している。こんなすばらしい自然環境のなかで学べる子どもたちは幸せであるが、教える側も充実した気持ちを味わえることであろう。自前の宿泊研修所を持つという夢の実現、そこからまた新たな夢がふくらんでくることであろう。正直なところ、こんな研修体験がもう二十年早ければと妄想する、五十路半ばの迷い道である。  
(2005.7.2)

月度	私塾ネット主催&協賛行事案内(6月末確認分)	
4	24	私塾ネット全国塾長・職員研修大会&私塾・私学・企業懇親会 B I Z 新宿
5	11 29	エリア関東 第1回国語科勉強会 王子 北とぴあ      12 エリア中国定例会 エリア四国総会及び研修会 香川県啓真館「シード」
6	12 20	エリア関東・中部合同研修会 長野県チャレンジ学院「チャレンジ村」 エリア関東 第2回国語科勉強会 王子 北とぴあ
7	1 5 12 17	公立中高一貫6年生学校はどんな学校になるか(後援)主催進路研 第73回全日本学習塾連絡会議      14 エリア中国定例会(福山) エリア関東定例研修会&第3回国語科勉強会 山吹学習会 教育政策提言シンポジウム in 富山(協賛)主催民間教育連盟
9	13	エリア関東定例研修会      19 私立中高進学相談会(NSビル)(協賛)主催PNO塾全協
10	23	エリア関東 進学情報交換会
11	8	エリア関東定例研修会      13 エリア中国研修会(広島県福山)
12	4	首都圏塾団体合同忘年会(協賛)      13 エリア関東定例研修会
1	15	塾に役立つ情報展&合同新年会(新宿)(協賛)      19 エリア関東訪問研修&新年会
2	14	エリア関東役員会
3	14	エリア関東定例研修会

## 賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校	03-3376-2244
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2	
村山 サドヲ先生	
江戸川学園取手中学高等学校	0297-74-8771
〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1	
竹澤 賢司先生	
十文字中学高等学校	03-3918-0511
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33	
卯木 幸男先生	
東洋高等学校	03-3291-3824
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16	
齋藤 元治先生	
洗足学園大学付属第一高等学校	
	03-3711-5751
〒152-0012 東京都目黒区洗足1-15-13	
佐藤 慶一先生	
桜丘中学高等学校	03-3910-6161
〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12	
品田 健先生	
聖徳大学附属中高等学校	047-392-8111
〒270-2223 千葉県松戸市秋山600	
川並 芳純先生	
麹町学園女子中高等学校	03-3263-3014
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8	
伊藤 暁先生	
春日部共栄中学	048-737-7611
〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213	
宇野 禎弘先生	
大成高等学校	0422-43-3196
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5	
森 保先生	
東京学園高等学校	03-3711-6641
〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25	
須藤 勉先生	
東京立正中学高等学校	03-3312-1111
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15	
藤井 教戒先生	
八雲学園中学高等学校	03-3717-1196
〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-14-1	
横山 孝治先生	
関東第一高等学校	03-3653-1541
〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11	
副田 康孝先生	
武蔵野中高等学校	03-3910-0151
〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20	
海老沢 照明先生	
神田学園中高等学校	03-3291-2447
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6	
梅津 久昭先生	
和洋国府台女子中学高等学校	047-371-1120
〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1	
太田 陽太郎先生	

東京文化中学高等学校	03-3381-0196
〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1	
上前 善勝先生	
広島加計学園	084-941-4115
〒721-8502 広島県福山市引野町980-1	
和田 淳先生	
文京学院大学女子中学高等学校	03-3946-5301
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3	
大久保 幸夫先生	
京北学園	03-3941-6253
〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25	
実方 隆志先生	
大森学園高等学校	03-3762-7336
〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12	
河嶋 正先生	
株式会社パイロットコーポレーション	
	03-3538-3782
〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21	
辻 豊様	
株式会社教育企画ティーファイブ	
	03-5479-7061
〒140-0001 東京都品川区北品川1-22-17	
	ニックハイム104号
山田 孝幸様	

### 編集後記

私塾ネットの全国大会も4月に新宿にて盛大に行われ、今年度の活動が再び始動しました。

さて、今年度はどのような方向を目指してこの会は動いていくのか会員の皆様方には大いに興味のあることだと思います。今まで塾全協という名称で活躍してきました任意団体もNPO法人として大なる一歩を踏み出しました。ともあれ会がどんな形態をしていても会の活動というものはそれを構成している諸先生方の会への関わり方にかかっております。今年度から広報15ページに会の年間活動予定を掲載することになりました。それをご覧になって是非活動に積極的に参加して頂きたいと思います。平成17年度の最初の広報を発行するにあたり、会員の諸先生方には是非お願い申し上げます。

編集長 平林 治

## 全日本私塾教育ネットワーク

### 本部事務局

〒173-0005 東京都板橋区仲宿29-6

ナカジユク内

TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529

Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

### 理事長 谷村 志厚

〒270-2231 千葉県松戸市稔台63-21

A I M学習セミナー内

TEL 047-368-2729

FAX 047-368-2189

### 私塾ネット広報編集委員会

〒120-0032 東京都足立区千住柳町14-12

青雲塾内

TEL 03-3881-2240

FAX 03-5284-3444